

第 4 章 その他の皮膚用洗淨料

化粧石鹼以外の皮膚洗淨料としては洗粉、クレンジングクリーム、洗顔クリームなどが用いられる。近年クレンジングクリームの需要は次第に増えつつある。

I. 洗 粉 Washing Powder

洗粉は洗淨料としては古い歴史をもっているが、精良な化粧石鹼の普及と共に、その使用は次第に減りつつある。

石鹼はいかに精良な製品でも、水に溶けると加水分解してアルカリを生じ、pH 9.5~10.5 の強いアルカリ性を示す。このため鋭敏な皮膚を刺戟するのと、強い洗淨性による完全脱脂のために、荒れ性の人、弱い皮膚の人、幼児などに対しては適当でない。この欠点を捕うために過脂肪石鹼が作られているが、なお完全でないので、洗粉が今なお使用されている。

洗粉の原料としては澱粉性原料、蛋白質性原料、アルカリ性物質、石鹼その他が用いられているが、その主なものは次ぎの様である。

1) **澱粉性原料** 各種の澱粉、小麦粉、アズキ粉、ソラ豆粉、イリス根末、カラスウリの根。

2) **蛋白質性原料** 小麦粉、アズキ粉、ソラ豆粉、大豆粉、米糠、アーモンド末、粉乳。

3) **アルカリ性原料** ホウ砂、炭酸ナトリウム、セスキ炭酸ナトリウム、重炭酸ナトリウム。

4) **その他** ベントナイト、カオリン、タルク、酸性白土など。

これらの数種が配合されるが、洗粉本来の性能からいえば、アルカリ性原料や石鹼を用いないのが望ましく、少量の使用にとどめるべきであろう。石鹼も同様であるが、その泡立性のために、石鹼の入らないものは余り好まれない様である。

洗粉の洗淨作用は、摩擦による機械的作用と、粉末粒子による吸着作用の両者による。即ち洗粉を皮膚に塗り摩擦することによって、皮膚に附着しているアカを引き離し、粉末の吸着性によってその表面に吸着させ、これを洗い流すのである。この時石鹼末が配合されている時は、その洗淨性が加わり、アルカリ性原料が添加されている時は、アカの酸性の中和、乳化などの作用が加わる。

荒れ性の人、幼児の皮膚に適する洗粉としては、生大豆粉、米糠（石粉を含まぬもの）、粉乳、アーモンド末などの、油脂を含む原料を用いたものが望ましい。これらの油脂は洗淨後適當の潤いと滑らかさを皮膚に与えて、洗粉が石鹼と違う特長を発揮するものである。

処 方 例

(1) 澱 粉	93%	粉 乳	2.0%
ホウ砂末	1.5 "	安息香酸ナトリウム	0.5 "
石鹼末	2.5 "	香 料	0.5 "
(2) 小麦粉	84%	粉 乳	3%
澱 粉	10 "	安息香酸ナトリウム	0.5 "
ホウ砂末	2 "	香 料	0.5 "
(3) 大豆粉	10%	カオリン	35%
石鹼末	5 "	香 料	適宜
澱 粉	50 "		
(4) コーンスターチ	40%	ソープレスソーブ	8%
カオリン	50 "	香 料	適宜
ホウ砂	2 "		

原料の粉末を混和しながら粉碎し、これに香料を噴霧式でかけてよく混和し、篩で濾して製品とする。着香の方法は原料粉末の一部に香料を吸着させ、これを残りのものによく混和する方法がよい。香料は保留剤のよく利いた香料を用うべきである。